

現代に求められる 倫理観を育成する 商学部を目指します

高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 学長 瀧上勇次郎
取材・文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1948年生まれ。京都大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専攻博士課程単位取得満期退学。経済学博士。高崎商科大学教授、高崎商科大学学部長などを経て、2004年より現職。専門は経済変動論、日本経済論。

【大学プロフィール】1988年高崎商科大学(商学科)開学。2001年高崎商科大学(流通情報学部)開学。同年、短期大学が高崎商科大学短期大学部(現代ビジネス学科)に。06年大学院流通システム研究科開学。10年より流通情報学部が商学部に変更予定。

1906年の学園創立、88年の短期大学開学以来、本学は「実学の商科」「人づくりの商科」として地域とともに歩んできました。2001年には高崎商科大学が開学し、「学部」学科の大学として成長してきました。来年度はその流通情報学部を「商都高崎」にふさわしく商学部と改め、新たなスタートをきります。学部名こそ伝統的な名称に変わりますが、単なる原点回帰ではありません。新しい商学部に変容するという強い意志が込められているのです。

キーワードはホスピタリティです。「市場には心がない」というサムエルソンの言葉を受け、都留重人は「市場の参加者にはしばしば邪心がある」と述べました。今回の金融危機をみても、心の通わない経済活動が破たんするのは明らかです。ビジネスに倫理が求められる時代だからこそ、実学でありながら、そこに人間味あるホスピタリティを結合させることを目指す新たな商学部の意義があると確信しています。

私は、他に負けない本学の良さを、面倒見の良さだと考えています。「面倒見がいい」というのは、ともすれば「面倒くさい」にもつながります。それほど手間がかかるということです。けれど、それ

を厭わず、良い大学にしたいという強い志が教職員にはある。キャリアサポート室の職員などは、学生の名前はもちろん出身校や就職先までも把握しているほどのです。

ネットを活用した学生による授業評価では率直な意見が出てきます。厳しい指摘もありますが、真摯に受けとめ、教員研修に生かしています。一方、今年度からは学生に年3回、自己評価シートを提出してもらっています。常に自らの目標を意識し、授業や学生生活の振り返りをしてもらうものです。

課外講座の「資格道場」では、難関資格を目指す学生を長い期間をかけて応援します。短大としては全国初となる日商販売士二級の合格者も誕生しました。このようにキャンパス全体でキャリア支援をしている大学なのです。

本学は建学の精神として「実学重視」「人間尊重」「未来創造」「地域貢献」を掲げています。私は、未来に向かって飛び立てる、豊かな人間性を持つ学生を育てたいと思っています。どんなタイプでも構いません。打ち込みたいものがある、意欲ある若者にきてほしい。大切なのは、何に向いているかではなく、何をやりたいか。その夢をここで実現してください。